

日光東照宮

四百年のときを超え（平和への願い）

徳川家康公は、自らの死後、日光の地に小さな堂をつくり、そこに神として祀るようにとの趣旨の遺言を残しました。八州の鎮守となつて世の平安を見守ろうとの思いでした。初めは東照社と名付けられた社殿でしたが、三代将軍家光公はこれを絢爛豪華な社殿（現在の東照宮）に造り替え、その後、



260年もの間続いた江戸幕府の礎は家康公によって築かれた。家康公は死後も日光から平和を見守っている。

5100体を超える精密な彫刻群

【五重塔】(重文)
1650(慶安3)年、若狭(福井県)の小浜藩主、酒井忠勝の寄進によって建立されました。高さは約36メートルあります。1815(文化12)年に火事で焼失し、1818(文政元)年に再建されました。内部は吹き抜けになっていて、心柱を四層から鎖で吊り下げ、最下部は礎石から10センチほど浮いている構造です。これは、年を経て木材が縮んだり、重みで屋根が沈んだりしても、心柱が下がることで隙間ができにくい仕組みです。また、心柱を塔身から構造上分離させることで免震の機能をもたせています。こうした日本古来の構造は東京スカイツリーに応用されているといわれています。

一層目の周りには十二支の動物の彫刻があり、その正面には家康公、秀忠公、家光公の干支である寅、卯、辰が並びます。



石鳥居をくぐり左手にある高さ約36メートルの五重塔。

【神厩・三猿】(重文)

神様に仕える神馬のいる場所が神厩。東照宮の中では唯一の素木造で当時の武家の殿舎に設けられた馬屋の形式になっています。長押(なげし)には、「見ザル」「言わザル」「聞かザル」の彫刻が刻まれています。猿の一生を描きながら、人として歩むべき道を説いています。



神厩の外壁上部には三猿で知られる彫刻が刻まれている。

【三神庫・想像の象】(重文)

表門を入ると上神庫、中神庫、下神庫の3棟の建物が並んでいます。「校倉造」の外観を模しており、春秋の渡御祭(百物揃千人行列)に使われる装束や流鏝馬の武器などが収められています。上神庫の側面には2頭の「象」の彫刻があります。狩野探幽が想像で描いたと伝えられており、「想像の象」と呼ばれます。



上神庫に2頭の大きな象の彫刻「想像の象」がある。



春と秋の例大祭で行われる「百物揃千人行列」。



国宝陽明門近影。彫刻は陽明門だけで500を超える。

【陽明門】(国宝)

日光で最も有名な建築ともいえる陽明門は、1636(寛永13)年に造営されました。江戸時代初期の彫刻、銚金具(かざりかなぐ)、彩色などの工芸、装飾技術がすべて集約されていると言っても過言ではありません。一日中見ていても見飽きることがないことから別名「日暮らし門」とも呼ばれ、国宝となっています。

陽明門には500を超える彫刻が刻まれています。麒麟、竜、竜馬、唐獅子などの霊獣と呼ばれる想像上の動物をはじめ、人物や菊牡丹など、色鮮やかで精密な作品群で埋め尽くされています。

「唐子遊び」と呼ばれる子どもを描いた20の彫刻の中には、腕力のある子が弱い子をいじめたり、それを止めようとしている場面が見られます。鬼ごっこや雪だるま竹馬などで遊んでいる様子も見取れます。子どもたちがのびのびと暮らせることが平和のあか

しであるとの家康公の願いがこに込められているのです。建物の軸となる柱や梁にも牡丹唐草などの文様の彫刻が施されています。貝殻をすりつぶして作った白い顔料である胡粉を塗った12本の柱には、グリ紋と呼ばれる渦巻き状の地紋が彫られています。門をくぐり終わる左側の柱だけはグリ紋の向きが異なり、「魔除けの逆柱」と呼ばれています。

【唐門・透塀】(国宝)

本社の正門が唐門です。江戸時代には「御目見得(おめみえ)」という将軍に拝謁できる身分以上の幕臣や大名だけが通行できました。今でも正月や大祭など限られた時にしか使えません。この唐門から左右に伸びて本社を囲んでいるのが透塀で総延長は160メートルあり、塀の全体に彫刻が施されています。唐門と透塀は平成の大修理が終わり、美しい色彩がよみがえりました。



陽明門をくぐると正面にある国宝の唐門。



修理を終え美しい色彩を見せる透塀。

【本殿・石の間・拝殿】(国宝)

本殿、石の間、拝殿が工の字形に配置されている本社は、東照宮の中心となる建物です。神社建築様式の「権現造」の完成形で、国宝になっています。拝殿の天井には狩野探幽と一門によって、100頭の竜が描かれており、1頭ずつデザインが異なっています。間仕切り戸も探幽の作で、入口から見ると、右に麒麟、左に白沢が描かれています。

神の世界である本殿と人の世界である拝殿は、石の間でつながれています。本殿は東照宮の中でも最も神聖な場所とされています。幣殿(外陣)、内陣、内々陣の3室から成っていて、一番奥の内々陣に神霊が祀られています。本殿の扉の上に並んでいるのは狼の彫刻。狼は鉄や銅を食べ、戦争になると、それらがなくなつて生きられなくなると思われ、狼が生きられないのは戦争がない世の中ということの意味し、ここにも平和への願いが込められているのです。

【眠り猫】(国宝)

東回廊の奥社参道の入り口にあるのが有名な眠り猫です。左甚五郎の作と伝えられます。真裏には雀の彫刻があり、猫と雀が共存共栄できるほど平和であるとの意味があるともいわれます。



東照宮の数ある彫刻のなかで最も有名な彫刻「眠り猫」。

【奥社宝塔】(重文)

奥社は家康公の墓所です。銅鳥居、銅神庫、拝殿、鍔拔門(いぬきもん)、宝塔などがあります。宝塔には家康公の神柩(しんきゅう)



宝塔に納められているのは家康公の神柩(しんきゅう)。

東照宮にはこれ以外にも数多くの貴重な建造物があり、全体で5100体を超える彫刻があります。それぞれが意味をもっています。先人の英知の結晶といえるでしょう。